

2014年8月20日の集中豪雨時の 気象状況について

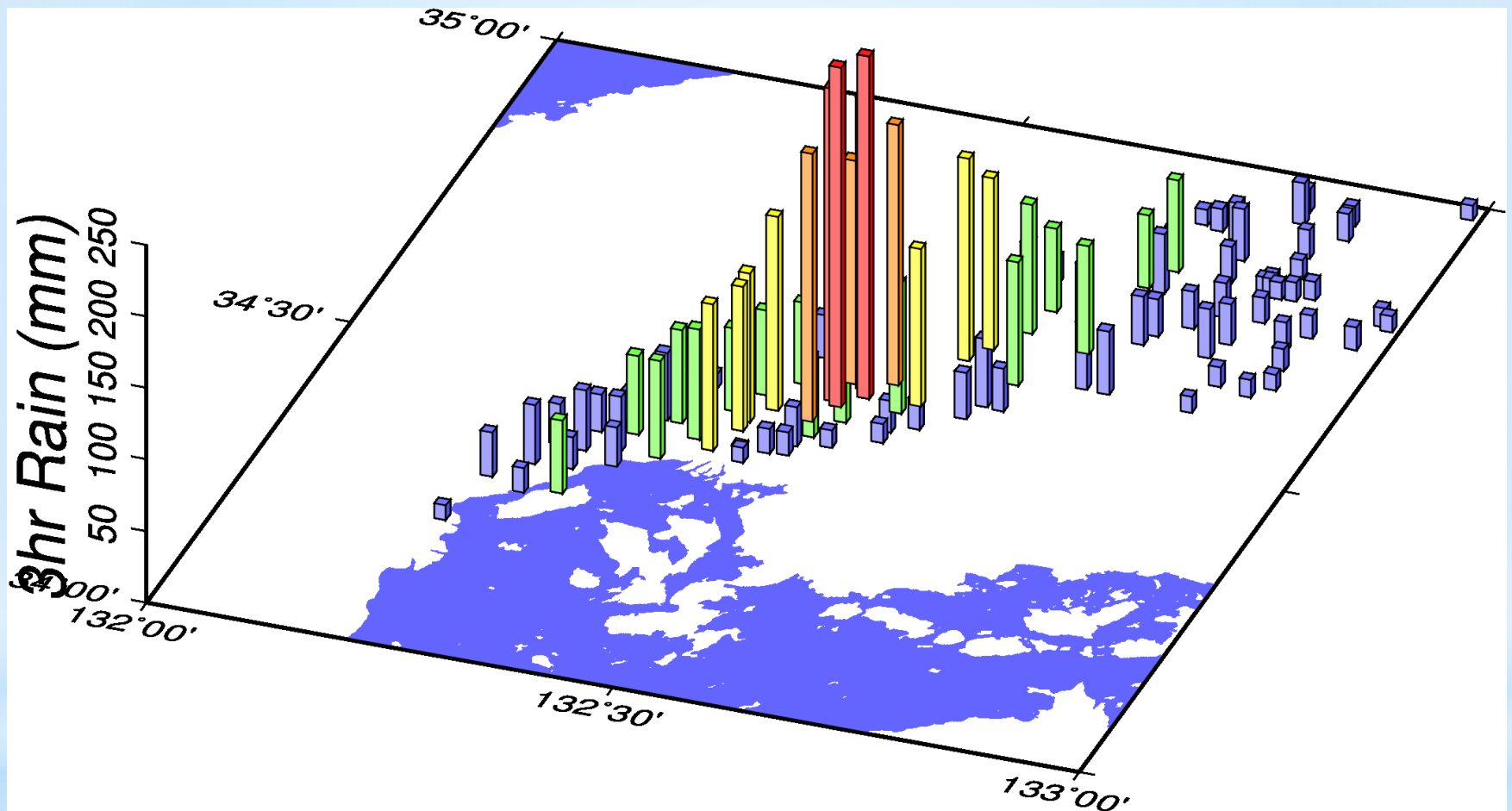
広島工業大学 環境学部地球環境学科

田中健路

概要

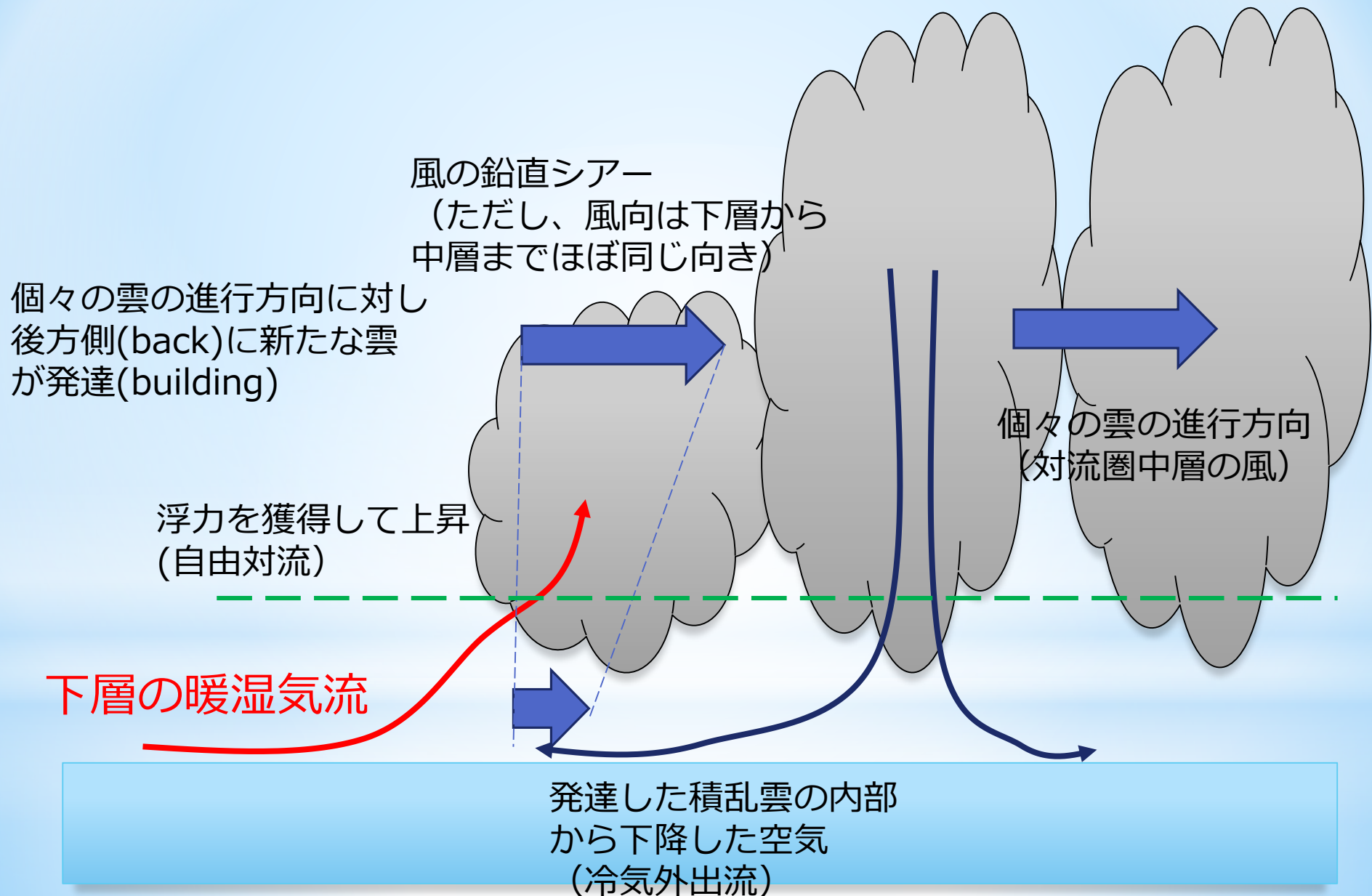
1. 日本海側から南西に延びる停滞前線の南側に、太平洋高気圧の縁を周って日本の南海上から暖かく湿った空気が流れ込む。大雨は、停滞前線に伴う湿った空気の南側で発生。
2. 大気の下層では、豊後水道を通過して広島に向かって暖かい湿った空気が流れ込む。
3. 広島市付近の大気の状態の不安定（太平洋上の上空の乾燥空気（上空寒冷渦）の影響も）で、風の鉛直シアが大きく、線状降水帯が形成されやすかった。
4. バックビルディング形成により、南西から北東に延びる線状降水帯が形成。
5. 広島市安佐北区三入（ミイリ）をはじめ、3時間雨量が200mmを超える地点が県内の雨量観測局で4地点、3時間雨量100mmを超える範囲が細長い帯状に分布

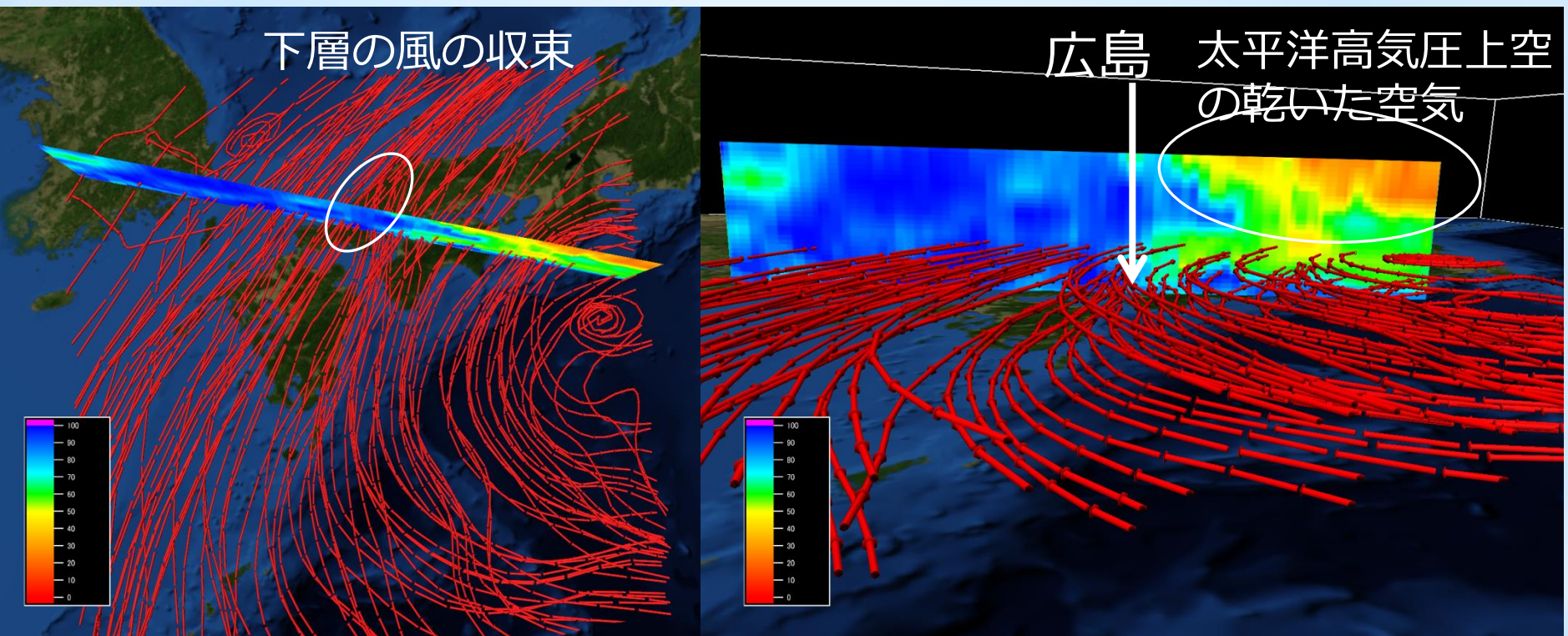
8/20 1:30~4:30までの3時間雨量



200mm以上：4地点 (三入, 三入東, 安佐北区役所, 上原)
⇒ いずれも安佐北区の雨量計
安佐南区では 高瀬 (国) が最高(187.0 mm)

バックビルディング形成





相対湿度の鉛直断面と下層(3000m以下)の水平風の流れ
(流線) (2014/8/20 00:00 JST)
(気象庁数値予報データメソ解析データ(MSM)より作成)